

企画展から、六ヶ所村で発掘された縄文時代の遺跡から読み取れる、当時の様子や縄文人の思いを時代区分ごとに7つのメッセージとして、ご紹介します。
縄文時代中期からのメッセージ5です。

メッセージ 5

富ノ沢遺跡の二つの大集落の謎？



中期の土器様式の文化圏



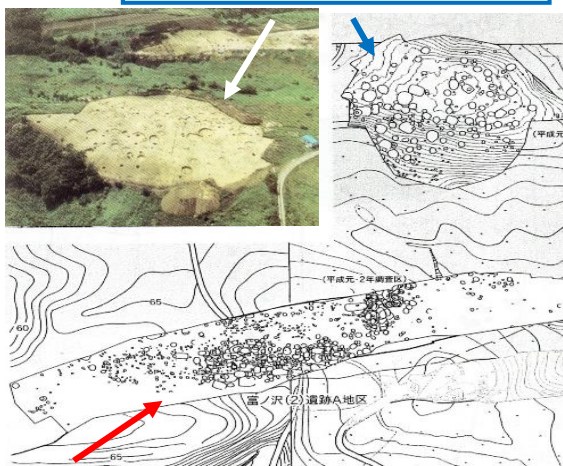
円筒上層C式土器



大木10式土器

A 地区と C 地区 富ノ沢 (2) 遺跡 A 地区
えんとうけい ど き ぶんか
 地区に東北北部の円筒系土器文化の集落があり、集落の第1期円筒上層C式期から第4期にかけて人口が増加した後、
えんとうじょうそう
 急激に減少に転じました。逆に、C地区は東北南部の
たいぎけい ど き ぶんか
 大木系土器文化の集落で、
さいばな
 第5期最花式期に急激に人口が増加しています。また、第6期(大木10式期)に入ると
だいき
 弥栄平遺跡など、今まで人が住んでいなかった場所に、大木系土器文化の新たな集落が形成されます。

富ノ沢 (2) 遺跡 C 地区
 中期中葉から末葉 79 軒



富ノ沢 (2) 遺跡 A 地区
 中期中葉から末葉 410 軒

なぜ衰退したのか？ この地区の集落の盛衰は、集落の移転なのか、それとも東北南部からの異なる集団の移住なのかという複数の考えがあります。他地域との人と物の交流が起こした現象かもしれません。

航空写真：六ヶ所村史刊行委員会 1997『六ヶ所村史 上巻Ⅰ』 より引用